

日本共産党は3本の請願の紹介議員を引き受けました

核兵器禁止条約への参加・署名・批准を求める請願 (掛川市平和委員会提出)

本会議では10対9で創世会(自民党会派)等の反対で不採択。

請願は不採択でしたが、市議会としてほぼ同様の意見書は提出できました。



市民からの請願がなければ提出はできなかった意見書です。

非核都市宣言を行なっている自治体の責務が果たせてよかったです。

○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	
大井 正	勝川志保子	高橋篤仁	鷲山記世	安田 彰	山田浩司	橋本勝弘	石川紀子	寺田幸弘	藤原正光	二村禮一	嶺岡慎吾	藤澤恭子	松浦昌巳	窪野愛子	山本行男	富田まゆみ	鈴木久裕	×草加章吉
共産	創世会									新しい風		SKK	共掛	志				
松本議長は裁決には参加しません ○:賛成 ×:反対 (敬称略)																		
共産:日本共産党議員団 SKK:市民派・公明倶楽部 共掛:共に創る掛川 志:志誠会																		

学校給食費を無償化するための恒久的な財政措置を求める意見書

(住みよい掛川をつくる市民連絡会提出)

→ 全会一致採択



住みよい掛川をつくる市民連絡会の皆さんが松本議長に請願書を提出

国民健康保険財政への更なる支援を国に求める意見書

(住みよい掛川をつくる市民連絡会提出)

→ 全会一致採択

教職員組合から出された公立の義務教育諸学校の適正な教職員数の維持・確保を求める請願も全会一致採択され意見書を提出しました。

他にも、以前社協の行なう困窮者や障害者支援相談事業に突然消費税が掛けられ、5年遡って消費税を市が負担するのはおかしいと、文教厚生委員会に意見書の提出を求め審議してきた結果、委員会からの提案でこの業務を非課税とすることを求める意見書も提出できました。

請願の採択や意見書の提出にも取り組み、しっかり市や国にもの言える議会にしたいです。

2月定例会での審議内容

《2025年度予算(一般会計、国民健康保険・後期高齢者医療保険・介護保険の会計)には反対》

- DX推進費→国が全国統一基準で行なうDX予算は削減どころか3割増に。
マイナンバーカード推進には更新のために職員の増員。
- 住宅リフォーム助成制度の廃止、子育て支援の無償化施策は拡大なし。
医療や介護に市の独自減免や事業の広がりがなく、弱者目線・生活者目線に欠ける。
- 教育予算に偏り→特別教室エアコン設置は3カ所の音楽室のみ、図書費減、施設整備費も十分でない中タブレットの更新などデジタル教育予算は5億円以上。中学校部活の地域移行や小学校の統廃合・再編は受益者負担・自己責任の考えが基本にある。
- 要望の高い維持管理費より、開発予算、新設予算に重きが置かれる。
- 医療・介護は高い保険料と窓口や利用時の自己負担 これでは安心して医療にかかることも年を重ねることも難しい。

《職員の給与改定を行なう条例改正に反対》

人事院勧告に沿った給与改定のみで、パート職員である会計年度任用職員の基本給が上がっていない。専門職の給与も考えられておらず、これでは市役所が選ばれる職場にはならない。

後の53議案には賛成しました。(他の会派はすべての議案に賛成)

《今後の掛川市議会の主な予定(案)》

- ☆ 4/13 (日) 市長・市議会議員選挙告示日
- ☆ 4/20 (日) 市長・市議会議員選挙投票日
- ☆ 5/16 (金) 5月臨時会
- ☆ 6/5 (木) ~7/2 (水) 6月定例会



議会を終えての対談

勝川議員

×

大井議員

来年度予算をどう思った?

勝川: 目線がどうも市民一人一人にはいつてないように思えた。困っている市民の生活を支える視点が弱いと思う。何をしてほしいか、何が足りないのか、決める前に、声の小さい弱い立場の人、女性や子どもにも聞いてほしい。

大井: 一般生活道路改良が6千万円しかないのに、事業関連道路改良に1億3千4百万円、都市計画施設整備に1億1千万円など開発優先になっている。子どもの遊び場の利用料金取るのはいかしくない、せめて格安に。また、市の業務が国の一元管理に移行する。DX予算は、経費削減でなく逆に負担増になる。

よかったな、と思ったことは?

大井: 通学路などの歩道改良に、2千3百万円増の1億1千6百万円ついたのは評価できる。補聴器購入助成費や带状疱疹ワクチン接種費など、市民要望から実現した施策が継続できて良かった。

勝川: 生活保護世帯へのエアコン設置費用が予算化された。夏前にエアコンが設置できる。一般質問で要求したことが実現してきた。

4年任期の最後の議会を振り返って?

勝川: 任期中すべての議会で一般質問、代表質問してきた。質問の準備は本当に大変だったけど、すごく勉強できた。請願の紹介議員なども引き受け、市民の皆さんとともに実現できた補聴器購入助成制度などもあった。意見書は不採択になってもあきらめずに市民の皆さんと一緒に提案し続けた。おかしいことはおかしいと言いつづけられたと思う。

大井: 議員活動のイロハから勉強した。ゴミ焼却場建替えの方針転換や、メガ風力発電の事業撤退は、運動している時の充実感や、結論が出たときの達成感を感じた。逆に中学校部活の地域展開などは、問題点や課題が明確になってきたのに、解決のビジョンが見えないまま進んでいくイラダチを覚える。年々地区要望や個人的相談件数が増え、結構な件数を解決できてうれしかった。

最後に

勝川: まだまだ実現したいこと、たくさんあるよね。

大井: みんなの役に立ちたいと思います。